

# フェリーチェ・ベアトの写真

## 人物・風景と日本の洋画



図版1.  
フェリーチェ・ベアト  
《役人と従者》  
鶏卵紙 DIC川村記念美術館

---

この秋、DIC川村記念美術館は、同館コレクションより、幕末から明治にかけて日本を撮影したフェリーチェ・ベアトの写真約180点を初公開します。本展はベアトの日本滞在とほぼ同時期に国内で制作された他館所蔵の洋画18点も展示することで、写真と黎明期の洋画の関係、東西文化の交差を見つめるものです。

---

会期	2017年9月9日(土)-12月3日(日)
開館時間	9:30-17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜(9月18日、10月9日は開館)、9月19日(火)、10月10日(火)
入館料	一般1,300円、学生・65歳以上1,100円、小中高600円
会場	DIC川村記念美術館(千葉県佐倉市坂戸631)
電話	掲載用=050-5541-8600(ハローダイヤル)取材用=043-498-2672(事務所直通)
主催	DIC株式会社
後援	千葉県、千葉県教育委員会、佐倉市、佐倉市教育委員会

## 概要

フェリーチェ・ベアト（1834<sup>\*</sup>-1909）は、19世紀半ばに中東やインド、中国などで撮影を行い、異国の風景や、インド大反乱、第二次アヘン戦争など戦場を記録する写真家として活躍しました。1863年には画家ワーグマンを頼り日本に赴き、幕末から明治にかけて、横浜を拠点に、江戸や長崎など各地で風景や風俗を撮影しています。1884年に離日しますが、ベアトが写した写真は、海外向けの輸出品として盛んになる、いわゆる「横浜写真」の嚆矢として高く評価されるとともに、150年前の光景を現代に伝えるものとして、われわれの眼に非常に魅力的に映ります。

一方、近代日本の視覚表現において、写真は重要な役割を果たしています。油彩画の技法と写真技術とともに西洋から日本に伝えられますが、洋画に取り組んだ画家たちは、場合によっては写真も参照しつつ、構図を学び、風景を見だし、芸術性の高い油彩画をつくりあげてゆきました。

本展は、DIC川村記念美術館が所蔵する3冊のアルバムから写真約180点と、そこに見出される「人物（風俗）」と「風景」という観点において、日本における草創期の洋画作品18点をあわせて紹介するものです。西洋から日本に向けられた視線と、それを受けて日本で育まれた、芸術へと向かう視線を比較しながら、東西の文化の関わりを見つめなおす機会になればと考えています。

※ベアトの生年に関しては1825年あるいは1832年とする説もあります。



**図版 2.**  
フェリーチェ・ベアト《愛宕山から見た江戸のパノラマ》  
鶏卵紙 DIC川村記念美術館

## 見どころ

### 1. 甦る 150 年前の日本の姿、ベアトの写真を一堂に展観

DIC 川村記念美術館所蔵の 3 冊の写真アルバムから約 180 点を初めて展示します。およそ 150 年前に撮影された写真は保存状態が良好で、高い技術を示すベアトの写真をもとめて見る事ができる機会となり、現在では失われた在りし日の日本を目の当たりにすることができます。



**図版 3.**  
フェリーチェ・ベアト《有馬屋敷》  
鶏卵紙 DIC 川村記念美術館



**図版 4.**  
フェリーチェ・ベアト《夜警、江戸》  
鶏卵紙 DIC 川村記念美術館



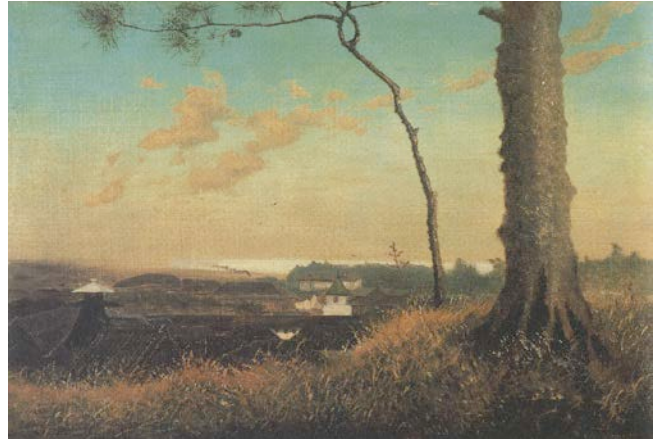
**図版 5.**  
フェリーチェ・ベアト《葱売り》  
鶏卵紙 DIC 川村記念美術館



**図版 6.**  
フェリーチェ・ベアト《東海道、横浜近郊》（生麦事件の現場）  
鶏卵紙 DIC 川村記念美術館

## 2. 日本における初期洋画もあわせて紹介

ベアトの写真に見られる「人物（風俗）」「風景」という観点から、チャールズ・ワーグマン、高橋由一、本多錦吉郎、渡辺文三郎、五姓田義松、浅井忠、小山正太郎、高橋源吉、曾山幸彦、佐久間文吾の作品 18 点を展示します。洋画をめざした画家たちは、写真も参考にしながら芸術的な作品を作り上げてゆきました。本展では、絵画と写真の表現の差や共通点を比べることができます。



上：図版 7.  
高橋由一《愛宕山より品川沖を望む》1877(明治 10)年  
油彩、カンヴァス 横浜美術館

左：図版 8.  
浅井忠《農夫帰路》1887(明治 20)年  
油彩、カンヴァス ひろしま美術館



上：図版 9.  
佐久間文吾《長房村風景》1889(明治 22)年  
油彩、カンヴァス 府中市美術館

右：図版 10.  
五姓田義松《婦人像》1871(明治 4)年  
油彩、カンヴァス 東京藝術大学



**関連イベント** （各氏プロフィールとチケット購入方法は当館ホームページに掲載します）



■講演会①

登壇予定：三井圭司（東京都写真美術館学芸員）

「フェリーチェ・ベアトの写真技術」

9月23日（土）13:30-15:00 レクチャールーム 13:00 開場

予約不要 | 当日 12:30 より受付にて整理券配布 | 定員 50 名 | 入館料のみ



■講演会②

エバレット・ブラウン（元 EPA 通信日本支局長／ブラウンズフィールド代表）

「日本の面影」

10月14日（土）13:30-15:00 レクチャールーム 13:00 開場

予約不要 | 当日 12:30 より受付にて整理券配布 | 定員 50 名 | 入館料のみ

■担当学芸員によるギャラリートーク

9月9日（土）、10月28日（土）、11月25日（土）14:00-15:00

14:00 エントランスホール集合

予約不要 | 定員 60 名（イヤフォン使用予定） | 入館料のみ

■ガイドスタッフによる定時ツアー

上記講演会・ギャラリートークの開催日を除く毎日 14:00-15:00

14:00 エントランスホール集合

予約不要 | 定員 60 名（イヤフォン使用） | 入館料のみ

■古典落語とハープ即興

柳家吉緑（落語協会二つ目）、彩愛玲（ハープ）

落語演目：「死神」「妾馬」

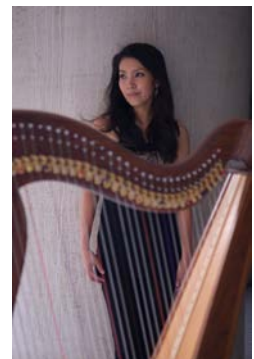
11月18日（土）17:45 開場 18:00 開演

要予約 | 全席自由

チケット発売日＝友の会 8/23（水）、一般 9/16（土）

料金＝一般 3,800 円（当日入館料込み）、友の会 3,300 円

予約受付電話 043-498-2672（開館日の 9:30-17:00）



## 図版掲載をご希望の方へ

- \* 作家名・タイトル・制作年・所蔵者の情報は必ずキャプション表記してください。
- \* 掲載情報の事実確認をさせていただくため、発行前にレイアウトをお送りください。
- \* 紙媒体は掲載物送付（掲載ページの PDF 可）、ウェブ媒体は公開用掲載ページの URL 通知をお願いします。
- \* このページを出力しファックスしていただくか、Eメールで下記の情報をお知らせください。

お名前

ご所属

電話番号

Eメール

媒体名

掲載号

発行予定日

コーナータイトル

執筆者名（記名原稿の場合）

図版 No.

図版送付×切日（対応できない場合もあります）

### お問い合わせ・追加資料リクエスト先

DIC 川村記念美術館

TEL 043-498-2672（取材用）※記事掲載用は 050-5541-8600（ハローダイヤル）

FAX 043-498-2139

広報担当：海谷紀衣 [press@kawamura-museum.com](mailto:press@kawamura-museum.com)

学芸担当：赤松祐樹